平成29年度
第1回　地域活動実践講座
レポート集

道民カレッジ主催事業
平成29年度第1回地域活動実践講座
開催日：平成29年9月6日（水）
場　所：かでる2・7　1030研修室

目次（レポート提出順）

１．三谷　馨
札幌からの遠隔地域支援の実践
～「プラチナの会」による留萌「FMもえる」を通した活動～・・・・・・・・・１

２．平川　省三
町内会「ふれあいサロン」活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３．石川　弥一
海濱清掃ボランティアに参加して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

４．榎本　聰子
地域活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

５．丸尾　清一
私の実践「近美を愛するブリリアの会」の活動・・・・・・・・・・・・・・８

６．山内　ヒメ子
学んだことを活かして・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

７．由田　笑子
地域活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

８．久保　忠男
北海道の市町村を訪れて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

９．早坂　惇司
道民カレッジで得た学習成果を地域活動に生かす
～新聞のコラムの書き写し・音読・感想・意見の発表を通して・・・・・・１５

１０．牧田　武治
地域活動（町内会活動）の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

札幌からの遠隔地域支援の実践
～「プラチナの会」による留萌「FMもえる」を通した活動～

三谷　馨

Ⅰ　私と留萌のつながり

(1) 自己紹介

留萌市出身、76歳、留萌で30有余年務めた会社を定年退職し、2004年道民カレッジへ入会。「FMもえる」設立と同時に会員となる。2008年5月札幌市へ転居。2012年5月林芳男氏他5名と「道民カレッジ」学習サークル「プラチナの会」を設立し入会。その活動のひとつに「FMもえる」との連携講座を契機に活動を開始する。

(2) 留萌の「FMもえる放送局」

2004年10月1日、佐藤太紀氏が中心となり、衰退気味であった留萌のコミュニティの再生を願い、留萌管内の情報を地域に発信することを目的として「FMもえる放送局」を設立した。場所は留萌の玄関口であるJR留萌駅。「ラジオを通して自分たちで地域を支えていきたい。若い人が就学や就労で出て行っても戻ってきて欲しい」という思いのもと、視聴者が「楽しみ」となるような、『マチの聴こえる回覧板』として全てボランティアにより運営されている。

(3) 留萌の実態

市政財政難が著しく、夕張市より厳しい経済状況。人口減少、商業の衰退が顕著である。書店まで廃業となる。一方、市民ボランティアが三省堂書店の誘致に成功し、留萌ブックセンターが開店する（NHK特集番組にて放送有）。また、官学民連携により、市民の健康維持増進を目的として、健康のための活動を行う研究施設「るもい健康の駅」ができる。

(4) 活動の動機

30年以上住んでいた留萌を離れて客観的にみた時、上記の状況を鑑み札幌から出来る支援は何かと考えるように至った。

Ⅱ　地域支援の実態

(1) 札幌からの支援内容

「FMもえる」と「プラチナの会」が数回行ってきた交流と対談をP3000（遠隔通信機）を使い話し合いと交流の場での意見交換で留萌側と札幌側の両方に得るものが数多くあった。

ゲキシンメール通信をFMもえるに寄せ、その文章を記事にして1・2日中にA4版1～2ページ程度にまとめ札幌からその度ごと郵送した。文章の内容はFMもえるの電波に乗り地域に流れた。その内容は札幌ならではの時事ニュースから始まり地域のまちづくりに関する事柄など多彩に広げ、興味を持たれることを主点に放送局の番組を持っているゲキシンのパーソナリティーに読んでいただいた。【ゲキシンのゲキシンメールという番組で放送】

札幌での講演

「学習成果実践講座 in 札幌」かでる2・7で開催、まちなか再生北海道留萌市「マチの聞こえる回覧板」という題で株式会社社長佐藤太紀氏講演を行う。

地域の情報源としての取り組みの成果を発表、コミュニティFMでの情報を地域住民が自らの手で生の声を発信・受信する。講演終了後佐藤社長を囲み、プラチナの会と意見交流、有意義な意見を交わす。

Ⅲ　成果と課題から今後について

(1) 活用の成果

地域住民の意識改革の一端を担えたようである。何故ならリスナーから反応がありスタッフや関係者のやる気が町おこしの動機付けのヒントになったからである。今後の活動に一層の励みを与えることになると思われる。

(2) 課題の課題

意識改革に留まり具体的活動には充分に至っていない。札幌からできる支援の在り方を今後も模索したい。

(3) 今後の活動

「FMもえると「プラチナの会」との連携講座を推進する（現在計画中。内容は食・健康・歴史など多岐に渡る)。また、インターネットを使ったP3000（遠隔通信機）を媒体として留萌―札幌間の情報交流を今後も積極的に推進していく。

町内会「ふれあいサロン」活動について

平川　省三

私の居住している「扇町しらかば町内会」は、約270世帯で構成されております。マンション・集合住宅等はあまりなく、ほとんど一戸建てからなる地域です。

私はいわゆる転勤族で、平成16年に65歳で定年退職となり、23年ぶりに滝川市民に戻って我が家に落ち着きました。その後、平成22年に民生委員児童委員に任命され、翌23年には町内会の副会長となり今日に至っております。

我が町内会も他地域と同様高齢化が進行しており、老年夫婦世帯・独居老人世帯が増加してきております。また、各種行事の参加者も、大体同じような顔ぶれのメンバーであることが多く、「何かもっとみんなのふれあいの場を作らなければ」と考えるようになりました。

平成27年4月、役員会に「ふれあいサロン」立ち上げについて提起しました。町内会員同士の絆を深めて、お互いが助け合っていけるような町内会を目指そう、とするものです。
6月5日、第1回「しらかば町内会ふれあいサロン」が21名の参加者のもと開会されました。以降今日まで毎月1回継続されています。サロン当日は会館に夫々お弁当を持って集まり、ランチと会話、市内各機関による出前講座、ミニミニパークゴルフゲーム等を楽しんでおります。出前講座では、滝川警察署による防犯・交通安全講座、消防署による防火講座、市地域包括支援センター、保険センターによる福祉・健康生活関連講座、美術自然史館・郷土館学芸員による講座、音楽講師による童謡と叙情歌講座等々を実施していただいております。

平成28年度に入ってから、扇町地区（4つの単位町内会がある）の老人クラブが、会員の減少により「解散」という事態になってしまいました。老人クラブとして担っていた諸々の業務（事業）の問題もあり、必要やむを得ず私どもの「ふれあいサロン」が受け皿となって継承していくこととなりました。

28年10月より組織の名称も「老人クラブ扇和会」となり新たなスタートを切っております。ただ基本は「互助精神」であり、「住み慣れた地域で安心して暮らせる」地域社会づくりに少しでも貢献していければ、と思っております。

海濱清掃ボランティアに参加して

石川　弥一

私が住む町内会役員は二年交替輪番制で、15 年前会社を退職し濡れ落葉か？と思った年に役員が廻ってきた。今まで町内会活動に参加していなかったがこれを契機に行事に関わるようになり、なかでも春秋の町内清掃には継続参加している。

今回、“NPO 法人北海道海濱美化をすすめる会”が石狩市浜益区川下海岸（通称：川下海水浴場）で道民カレッジ連携講座の清掃ボランティアを 5 月 21 日（日）に実施したので参加しました。

当日、朝 8 時札幌エルプラザ西側に集合しバス 2 台（1 号車 8 時 20 分発、2 号車 8 時 30 分発）で一路、浜益に向かうが、この日は浜益漁業協同組合主催の朝市が開かれていた為、道草をして朝市見学をする。
清掃現場に 10 時 30 分頃に到着すると、北海学園大学ボランティアの会、浜益地区有志他が参集しており、初めて合同行事であることがわかった。小学生から後期高齢者（私）まで老若男女 150 名近くが参集した。

主催者の挨拶の後、作業方法や手順、今後の予定について説明があり作業開始頃には小雨が降り始めたが、区割り別に分岐し一斉に清掃を始めた。ペットボトル・空き缶・空き瓶・レジ袋・トレイ・ビニール片・魚網の切片等多岐におよびました。その量は 2ｔ平ボディー車一杯になった。

これらの塵は何処から来たのだろう？海から流れ着いた物もあろう・・・ポイ捨てなのか？公道から離れているし、又、住民が捨てたとは考えづらく、不思議である。
作業を終え、美しい海兵に戻り、間もなく海水浴のシーズンになることで・・・と思い晴れ晴れした気持ちになったのは、先ほどからの小雨が上がった性も加わった。

今日の塵は目視出来るもので良かった。世の中には目に見えない塵がたくさんあると思う。大気を汚染するもの、水質を汚染するもの（足尾銅山鉱毒・イタイイタイ病・水俣病等）、近年では核のゴミが話題になっている。核のゴミの発生源は原子力発電所が主であろう、安心・安全・クリーンエネルギーと銘打っていたのであるが、ところが核のゴミ捨て場が無かった。又、福島第一原発のように大気・土壌・海洋にゴミが拡散してしまったのは目に見えないし拾うこともできない。

脱線しましたが、塵のポイ捨てをしない姿勢を子どもから大人まで家庭や社会で習慣づけていく事が大事であると思う。どんな塵も捨てない、出さない。外出時のゴミは必ず持ち帰る様に心がけたいと思う。

終わりに、このボランティア活動で感じたことは

1. 人海戦術の偉力を再認識する
2. 小中学生の活躍ぶりに感動した
3. 被災地救援ボランティアについてメディアが報じているが、ボランティアとは100%自腹である。

私の今後の企て

元気な内は町内会活動やボランティアに参加したいと思っています。来る9月24日は、同海濱美化をすすめる会に参加する予定です。

地域活動について

榎本　聰子

地域活動の重要性を強く感じながらも地域の人とのコミュニケーションを図ることは難しいものだと思う。 今までいろんな方法で地域の人々との協動を試みたがどれもスムーズにはいかない。

平成 11 年に現在のマンションに来たが、その年に夫が死去し、一人暮らしになったため地域との繋がりの重要性を感じ、年に 1 回しかない町内会の行事に参加した。
その時に老人クラブに入りたいと役員に申し出たが「あんたのように勉強をしたい気持ちのある人は浮き上がるから駄目だ」と断られ、しばらくはそのままにしていた。
広報さっぽろに老人クラブ連合会で「老人クラブ指導者養成講座」があるのを見つけて、申し込みをしようと社会福祉総合センターへ行くが、そこでも「70 歳以上になってから申し込みし直して下さい。多くの人が順番待ちをしているので。」とここでも断られる。当時 67 歳。それで老人クラブ関係は諦めて、何か私が社会との接点を持つ方法はないか「私の生きている意味は？」何なのかなんて考えてしまうので何かしなければいけないが、高齢になってからできることは地元の町内会活動などに協力できることをすること。
しかし、私の住んでいるところの町内会は 200 戸以上もあるのに、総会と言っても 6～7 人ぐらいしか集まらない。
そこでパソコンで文書作成を手伝いだしたが、出来上がった文書、例えば敬老の日のお祝いを 75 歳以上に渡すのに（私もいただける年齢）文書依頼してきたのが 10 月下旬。
時期が遅くなると思って急いで文書作成したが、いつになってもお祝い金が来ない。
来たのが年も明けて 1 月下旬。本来なら 9 月 15 日に配布するもの。
そのような状況下でお手伝いは無理ということになり手を引いてしまい町内会手伝いはやめた。

パソコン指導ならできると考えて同じマンションで生徒募集したが、生徒の負担額を軽くして実費程度にしたら、習う側は気楽にしすぎて逆に長続きしない。
エルプラザで市民活動団体「シニアパソコン倶楽部」として活動を始めたが、それも資料代を 1 回 100 円集金したら、中には「市民活動団体はすべて無料のはず」とエルプラザ 2 階全体に聞こえるような声で喚くような状態で、メンバーは半年で 74 名にもなり、体調を崩す結果になり解散。
居住地の地区センターに 10 台近くのパソコンが使わずに眠っていると聞いて所長に名刺を渡し、地域の人に教えたいと申し出たが「自分は市役所から紹介された人しか使わない」と言うが、結局地区センターのパソコンは誰にも利用されることなく終わったらしい。

結局、自分の持っている技術や知識を社会貢献に生かすことの難しさにぶつかることが多く、役立つことは少ないということを多く経験するのみになって道民カレッジのパソコンスタディグループも解散を余儀なくした。

しかし、このまま終わるのは残念の極み。私だけでは道を開くのも大変で、解決策として、娘も早くからボランティア活動に関心が深く、現在は埼玉県、東京都などで視覚障害者のために映画のバリアフリー化を志し、音声ガイドを数十年している。

しかし、いろんな事情から札幌に戻ってくるとのことで、札幌で同じく音声ガイドのボランティアは継続し、仕事としてまだ北海道にはない地域の高齢者に役立つ「シニアのための人材派遣・紹介」を始めるということで最初は小規模で起業するしかないので小さな事務所と住居探しを始めたところである。

私も体力の必要な手伝いはできないが、日商簿記 3 級、2 級、FP3 級と 2 級の AFP を学んだ知識を生かすチャンスと思い、10 月からは管理会計を勉強することにした。もともとパソコンは 20 年前からいじっているので、この知識を活かせば娘の手伝いにもなり、高齢者率がどんどん高くなる昨今の社会に地域活動として貢献できるであろうと考えている。

私の実践「近美を愛するブリリアの会」の活動

丸尾　清一

「私たちは近代美術館の前庭を借景として、いつもたくさんの緑に癒されています。そんな私たちが、いわば勝手に美術館周辺の美化に取り組むことは心楽しく、ちょっぴり意味あることではないでしょうか？」

８年前、私はマンション内にこのような呼びかけをさせていただきました。

すると15人の共鳴者が名乗りを上げてくれました。

当時の近代美術館前の歩道は雑草が茂っていたり、ゴミや枯葉が散乱したりしている状態でした。そこで私たちは夏期の間、２週間に１度の割合で清掃活動に取り組むことにしたのです。

会費を集めて、掃除用具を揃えたり、花の苗を購入したりしながら、これまで８年間活動を継続してきました。（年間の活動回数は15～6回です）以来、会員の増減はあったものの、現在も18戸の会員が在籍し、活動には常時7～8名が参加してくれています。活動の様子を見て、マンションに住まわれていない方の中からも会員になってくれた方がいます。

活動は、私の方から**「近美を愛するブリリアの会 会報」**を発行して、活動日をお知らせする方法をとっています。（現在まで164号発行しました）

すると、当日の朝6時に都合の良い方が集合し、それぞれ竹ぼうきを手に近代美術館前の歩道を清掃しています。近代美術館前の歩道は大きな木が歩道に覆いかぶさるように立っているため、年中枯葉が散乱していて掃除のし甲斐のある歩道です。

私たちがちょっとだけ自慢したいのは、歩道上にあった二つの空き地に、札幌市の補助でクサツゲという樹種を購入していただき、それで「ＡＲＴ」と「ＭＵＳＥＵＭ」という花（草）文字を描いていることです。また、街路樹升に花苗を植えていますが、これらの維持管理も大切な活動です。

私たちにとって、道行く人たちに「ご苦労さまです」、「きれいですね」と言われることは大きな励みとなっています。私たちのささやかな活動が、地域の美化に少しは貢献できているかな、と思っているところです。

課題は8年間活動を継続してきて会員が高齢化していることです。確かめたことはありませんが、平均年齢は70歳を超えていると思われます。

会員の皆さんからは「いつまでできますかねぇ～」という声も聞かれるようになってきました。会を主宰する私としては、「まずは10年目まで頑張ろう」と思っています。

それまでに後継の方が見つかるといいなぁ、と思っている昨今です。

学んだことを活かして―

山内　ヒメ子

今年、輪番制の町内会当番役員が回ってきた。町内会費、赤十字社の活動資金、神社祭礼、赤い羽根等々の集金、寄付、募金集め、広報誌・回覧板の配布が主な仕事だ。当町内会の構成員の約半分は、高齢者だ。若者たちが職場で働いている日中、留守を預かるのが役員の重要な役目。

何かあったとき、カレッジで学んだ「何」が役立つだろう？役立つ講座は何だろう？そこで受講したのが

公益財団法人札幌市防災協会の「上級応急手当講習会」

申込の時点で「市民向けの無料の講座がありますよ。」と勧められたが受講料を払えば、真剣に覚える努力をするだろうと、頼りない自分に期待した。

受講初日、防災センターの会場は若い男性ばかり。一番うしろの、最後の3席が女性用。約50人の受講生は、職場等から研修生として送り出された若者ばかりだ。

講習時間は9：00～17：00までの7時間（昼休み1時間）。

基礎をしっかりと叩き込まれた。

・止血法
・応急担架の作り方
・担架を使わない搬送法
・直接圧迫止血法
・骨折の固定
・毛布を使って一人で搬送する方法
・三角筋の使い方等々

応急手当は救命処置が第一。倒れた人を助けるために

・周りの人に応援を求める
・１１９番（救急車）通報を依頼する
・AEDの準備を依頼する
・心臓マッサージと人工呼吸をする（これは始めたら救急隊員に引き継ぐまで、絶対中断はできない。）

救命処置の実技実習訓練では、大きな声が出せず、周りの人に助けを求めることが出来ない。救命処置の順番を間違える。確認事項を忘れて次に進んでしまう。焦ればますます動きが取れなくなる。若いグループメンバーが順番に行う実技実習訓練を食い入るように見ながら覚えた。

最後の「修了認定チェック」をクリアーし「上級応急手当講習修了証」を手にした。

・「誰か来てください。倒れている人がいます。」
・「あなた、１１０番して救急車を呼んでください。」
・「あなた、AEDを持ってきてください。」

繰り返し、繰り返し、声に出して練習した。

1分間に100回以上のテンポでの「胸骨圧迫」を連続30回。起動を確保し、旨が持ち

上がるのを確認しての「人工呼吸」を２回。AED の使用。これらができるようになった。
　「救命処置」の必要な場面に出会わないようにと祈りながら、この名刺大の、なんの法的力もない「上級応急手当講習修了証」がもしもの時に、迷うことなく「応急処置」ができるという小さな自信のようなものをくれた。

・座して学び
・学んで覚え
・覚えたことを理解し
・理解したことを役立て
・役立てたことが、次の学びへのステップにつながる

　そんな学びの循環が「生涯学習の目指すところ」なのだと納得した。

地域活動について

由田　笑子

◎336世帯の団地に入居して10年になる。
　入居すぐに衛生部と云われ、「ハイ」と了承したが勤務しながら、早朝からの拘束時間2時間半はキツイものがあった。活動の動機というべきものではなかったが、「郷に入っては郷に従え」であった。以後3回目になる衛生部長をこなしている。少しずつではあるが、改善できるものは改善してきた。
　4名チームで、チーフに日誌を書いてもらい、次の班に渡す。
　80歳以上も何名か参加してくれている。皆に負担を掛けない様、楽な姿勢で、プロ並みの仕事ができる工夫やアイデアを出し合っている。
　エレベーターの溝が「ピカピカ」で砂ぼこりもない。皆の誇りである。
　そして、札幌市のモデル団地である事の誇りをもって仕事している。

◎14人体制の「見守り協力員」の一人として活動に入って5年。
　年々大変な事が発生している。昨日まで気づかなかった人が今回は「？」と思ったら、認知症になっていることも。急病人や家の中のケガやら何故か見廻った時に倒れている状態で動けず「119番」したり、状況によってドアが開けられない場合は冷静にレスキューを呼ぶ。緊急連絡先に電話して病歴を聞きながら場合によってはベランダの窓を割らざるを得ない了承を得ることもある。
　心肺停止6時間の人の心臓マッサージをした事もある。
　心配停止でも救急隊員が到着するまでする必要があるからである。私たち福祉に携わっている者は玄関より中に入れないことになっているが、稀に家族の了解と本人の了解を得て断捨離の手伝いをする（トラブル発生のリスクが高いから注意）。
　緊急連絡先は1軒より2軒が良い。回覧板はとっても大切なものである。何日も止まっていたり新聞あるいはチラシがたまっていたら要注意である。

◎地区の防火委員も引き受けている。
　会議、勉強会、活動小さな事だが札幌に起こるであろう危機感を持って地味だが活動している。建物の内外に燃えるものを置かない。見たら知らせる。不審火がとても多い地区である。

　最後に80歳以上の増加。認知症の見極めも難しく家庭に変わった事はありませんかと電話して、1日に何度も同じ電話が入ると云われ、すぐに区役所福祉課に相談することをすすめる。1人住まいで緊急なので直ぐに入居先を探してくれる。包括支援センターより早く対応してくれる。
　言葉は悪いが、泣いても喚いても入居させる。直ぐに慣れるのである。というか、一気に加速する例が多い。1泊でも留守にする場合は届け出てもらう。ヘルパーさんが入っている日、デイサービスに行く日も確認する。
　1人暮らしの65歳以上の人でも元気という人は、民生委員、福祉委員の訪問を拒む人も大勢いる。だが、その人たちこそ危険な場合もある。
　だから、ご近所付き合い声かけが大事である。最近は全国で町内会加入減や、町内会

がなくなっているところも多いと聞く。
　地域活動はとても小さな事だが、無駄な事は何もないと思う。ただ、携帯電話が手放せない。個人情報云々の時代なのでショートメールを送ってから連絡を取るようにしている。電話は「かけ放題」にしたのはこの頃である。
　ちなみに、バスに乗って乗り継いで8時間～9時間の実家に86歳の母が90歳の認知症の父を介護している。月に1度しか行けない長女が母の頼りである。1日に3回電話で起こったことを報告してくれる。田舎町なので、認知症の疑いがあった時、ご近所の頼れる人に、私が行くまで母の力になってくれる様にお願いの電話を入れた。今までは連絡網もしっかりしていて故郷に感謝している。
　地域活動していて役立つことはたくさんある。

北海道の市町村を訪れて

久保　忠男

［はじめに］

北海道は2018年に開基150年を迎える一方、人口をみると、現在減少し続けており、2030年には464万人に減少するなどの基幹産業の減退、少子高齢化の進退と若者の流出より、人口が減少している。このような中で、どのようにまちを維持していくかが重要な問題となっている。その場合、北海道の市町村にとって重要と思われるのが、1次産業（農業、林業、水産業）と観光であると考える。

平成の大合併から10年が経過した各市町村の現状と、北海道の良さを、この目で確かめて見たいとの強い思いがあって、今年（平成29年）5～8月にかけて、駆け足ではあったが道内175の各市町村を訪れた。今後、微力ながらもい観光者への親切なおもてなしの手助けができればと考えている。

［北海道を訪れる観光者を親切にもてなす］

北海道を訪れる観光者を親切にもてなす時に、必要となってくるのが、観光情報なみならず、歴史・祭り・自然・交通などの北海道に関する幅広い知識が必要である。

欲張って、あれもこれも習得しようとしても限界がある。今回は、その一部として道内の自然に的を絞ってみた。

ラムサール条約登録湿地は道内に13か所あるとは、今回初めて知った次第である。

道内第1号登録の釧路湿原はさすがに広大であり、「釧路市湿原展望台」には朝早くからアジア系外国人がバスで訪れていた。（さすがに外国人のパワーはスゴイ）

日本で唯一、二つの海を持つ町、八雲町、晴れた日の「噴火湾パノラマパーク」からの海の眺めも魅力的である。（太平洋に上る朝陽と日本海に輝く夕陽を見られるそうだ）

日本最北の温泉郷である「豊富温泉」は湯治場として人気がある。石油臭の湯に浸かっただけでも身も心もスッキリとした気分になった。（気分転換にも良いかも）

美瑛の「青い池」もなかなかの観光スポットである。丘の景観を楽しみ、大雪山を眺め、そして太陽光が散乱し、水の青さを一層引き立てる青い池を見るのも癒され感がある。（一人で訪れるのも良し、二人で訪れるとなお良し）

などなど・・・

［市町村の元気度］

一例として、釧路町の地産地消センターロ・バザールでは、小雨にも負けず9時開店前から野菜入れの器を持って7～8が待ち構えていた。（顔が生き生きしている）

岩見沢市上幌向地区では、春先、雨降りであったが国道沿い歩道の花壇整備に取り組まれていた。（別日、雨天にも係わらず一生懸命に花を植えられていた）

日高地方、協同でコンブ漁後のコンブを石浜で干す作業が行われていた。（顔は満足感が漂っているように見られた）

などなど・・・

それぞれの地域で、みなさんが力いっぱい頑張っている姿を拝見し、まだまだ北海道には元気が持続していると思うところである。

［平成の大合併］

各自治体の行財政基盤を強化し、行政の合理化、効率化を図るとともに、住民の利便性を向上させる。すなわち、道路や市街地の整備、文化・スポーツ施設などを充実させ、地域の発展を促すことが目的であったはずだ。しかし、実際のところ、住民の評判はあまりよくないようである。

「行政サービスが低下した」「庁舎が遠くて不便になった」など、聞こえてくるのは愚痴ばかりであるとも言われている。

平成の大合併前、北海道は212の市町村（34市・154町・24村）であったが、合併を経て、179の市町村（35市・129町・15村）となった。

この時、北海道では3か所の飛び地が生じた。

①日高町（旧門別町）と日高町（旧日高町）［日本一大きい飛び地（役場間が65㎞離れている）］

②釧路市（旧釧路市）と釧路市（旧音別町）

③伊達市（旧伊達市）と伊達市（旧大滝村）

生き残っていくために、仕方なく合併した市町村も少なくなかったのではないか。

［あとがき］

北海道の各市町村175か所を訪れ、美しい景観とおいしい空気を頂いてきた。名ばかりの北海道観光マスターの一員ではアカンとの思いがあったのも、今回の計画をより進め、日ごろから生涯学習に取り組んでいることが、実行を加速させたものと思っている。

今後における北海道観光展開に役立てるように、修行を積み重ねて行く所存である。

「とにかく北海道は広い～道」でした。

道民カレッジで得た学習成果を地域活動に生かす
～新聞のコラムの書き写し・音読・感想・意見の発表を通して～

早坂　惇司

はじめに

道民カレッジで、各領域について学んできた。生きるということは学ぶということ。と考えている。学んだことを少しでも地域にお返しできないか・・・と常々感じてきた。

毎日新聞を見る。特に囲み記事では、それぞれの筆者の方々のありようを発見する。

官名を受けた部分に接すると、その字数分、市販の原稿用紙に枠取りして、書き写す。

これらの小さな作業が、わたし個人のささやかな活動になった。

活動の動機

今までの個人の活動が、2012年北海道新聞の「卓上四季ノート」を販売したことで、「書き写しの愛好者」がいることに気付いた。

地域にある販売所のご支援もあり、現在では、名簿上33名の方が籍を置いている。

活動の成果

月1回の例会が8月で43回を重ねる。これまでの例会で、元コラム記者を招いて、執筆の苦労話を聞いたり、論説委員の方に来ていただいて「取材」として「記事」になるまでのしごとのしかけも伺った。

また、北広島にある北海道新聞の印刷工場を訪ねた。会員それぞれの質問に、工場の係りの方から「皆さん熱心に勉強されていますね」という言葉をいただいた。

活動の課題

シニアの方が多い。また、個人経営で仕事を持っている方もいる。“集い”は中休みを入れて2時間。次の会に期待が持てるよう、ムリなくムラなく、そしてムダがない「集い」でありたい。そのためには、販売所の方も「集い」のひとりとして入ってもらい、協力をいただいている。

「コラム」の文の中には、難語句・カタカナ語などが出てくる。第1回の例会から難語句については、解説・解読の資料を販売所の方に協力してもらっている。カタカナ語は呼びかけ人の私が担当している。

資料の構成についても、一層の工夫が必要と考えている。

今後の活動

学校教育でも新聞が利用・活用される時代に入ってきている。まず、家庭で新聞のことがらが、自然に話題になるように、そして、多彩な「情報」を見極めることができ人間として、心豊かに生きていくことを願っている。

志を同じくして、新聞を教材としている、札幌市内のグループと共に、学び合いたい。

仲間と一緒だから続けられる！

卓上四季
書き写しノートの集い

お気軽にご参加ください！

毎月、当販売所で開催されている「卓上四季書き写しノートの集い」は、頑張って書き写しをしている愛好者が集まって、様々な学習を行っています。学習といっても難しいものではなく、参加者全員でコラムを声に出して読んだり、コラムの感想を言い合ったり、書き写しの苦労を互いに分かち合ったりしています。年に数回、北海道新聞社の記者を招き講演会を行ったり、道新印刷工場の見学にも行ってきました。毎月１０～１５名の方が参加しています。開催日は毎月折込チラシでご案内しております。今月は下記の通り開催いたします。是非ご参加ください。

場　所　道新千田販売所　会議室
清田６条３丁目 7-25

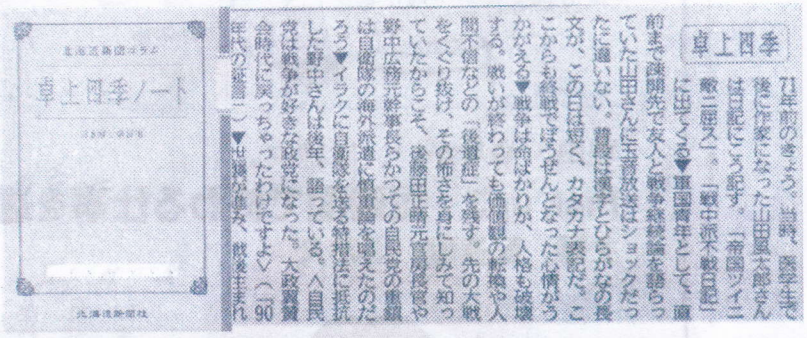
開催日　平成２９年８月２６日（土）

時　間　ＡＭ１０時～２時間程度

会　費　無料

定　員　１５名

お申し込みは電話・ＦＡＸで承ります



地域活動（町内会活動）の実践

牧田　武治

○ 自己紹介

・昭和３３年７月、電気通信建設会社に入社して以来、電気通信に関する建設工事に携わり、平成１２年３月、62 歳で 42 年間の現役を終えた。

・技術屋上りで趣味を持っていないことから自分の住んでいる地域での活動として、平成９年４月町内会の役員として町内会活動に参加することにした。

・二つ目としては、西区の三角山を拠点として活動しているグループとの交流や、円山地区で活動している親睦グループとの交流の中で、道民カレッジの存在を知り、平成２１年２月に道民カレッジ生となる。共に現在に至っている。

○ 道民カレッジについて

・最初の頃の道民カレッジ講座の受講では、好きな内容の講座を漠然と受講していたのであるが、まずは全 5 科目の博士号を取得することに目標を定めた。これが達成したのは、平成２８年１０月で約７年と８ヶ月を要した。

・続いて平成２８年 11 月には 3,000 単位の道民カレッジ学長奨励賞を受賞することができた。

○ 町内会活動（地域活動）について

・JR 白石駅の橋上駅（南北自由通路併設）の完成

白石北郷の住民は、JR を利用するには白石駅の東西に離れた踏切を渡り、遠廻りして駅南口を利用となるため駅北口の開設を強く望んでいた。町内会としても駅北側の北白石連合町内会（8 ッの町内会）と南側の白石連合町内会が、合同で「JR 白石駅周辺地区街づくり協議会」を平成１１年１月に結成して、JR 及び札幌市に働きかけを行うことになり、そのグループに参加することにした。

協議会では地域住民に対し、JR の利用、駅周辺の街づくり等についての意識調査アンケートの実施（9,062 通の回答）、街づくりを考えるワークショップや、未利用土地活用の収穫祭、地域の子供たちを含めての交流事業、花いっぱい運動を通じて駅周辺の街づくりなどについて地域住民と取り組んできた。

また、鉄道が開通する明治 16 年ころ、今の JR 白石駅周辺にはレンガに適した粘土が産出され、多くのレンガ工場ができて、昭和の初期まで操業していた歴史がある。その歴史に思いを馳せ、思い出レンガプロジェクトを立ち上げ、内外から 5,279 個の思い出レンガの応募があった。

地域の 4 つの小学校（白石、本通、北郷、北白石）児童を対象につむつむレンガプロジェクトを立ち上げ、学校ごと児童の発想によるレンガレリーフを作ったり、宿根草ガーデンプロジェクトではボーダーガーデンなどにも取り組んできた。これらは南北両駅前広場にそれぞれ設置されている。

13 年間の活動のなかで、170 回を超える事業委員会及び 24 回の全体会議などに参加しながら、活動してきた成果が実を結び、平成２３年１月 30 日の完成記念式典に繋がったものであると思われ感慨無量である。

・北郷親栄町内会の歴史

北郷親栄町内会は、北郷部落会（北郷南部落、北郷東部落、北郷西部落）として活動してきたが、同部落会はそれぞれ分離独立し、北郷西部落会は昭和29年10月に60世帯（総世帯76戸）の会員数で、北郷親栄町内会として発足した。

その後は急速に宅地化が進み発展を続け、町内会活動に参加した頃（平成9年4月）には会員数約3,200世帯（約10,100人）で札幌市有数のマンモス町内会となっていた。その後も高層マンションが増え、人口増加の一途をたどり、平成16年には4,400世帯（加入3,450世帯、加入率72%）と増加していた。人口の増加は中小マンションが増えたことによるものだが、反面未加入者も増えた。

そのためきめの細かい町内会運営を図ることを目的に、区域を7つの町内会に分割することになり平成17年4月から第1～第7町内会の単町として分割運営し、現在に至っている。

・北郷第4町内会での活動

平成17年4月から第4町内会の副会長として活動してきた。活動の柱は次の三ッを主体としており、会員相互のコミュニケーションを図ることを目的としている。

①子供たちの交流（夏休み朝のラジオ体操、Xmas会）

②会員相互の交流（パークゴルフ大会、焼き肉パーテイ）

③高齢者（77歳以上）相互の交流（長寿のお祝い会）

また、日々の活動としては、主要道路の花植えや手入れ、町内河川の清掃、公園の草刈りおよび点検、街路灯の点検などの環境整備や、交通安全パトロール、夜間パトロール、などの防犯活動も行っている。

最近は特に自然災害が多く発生していることから、白石消防署の協力を得て会員参加の防災訓練を行って、防災意識の高揚に務めている。

平成21年7月から札幌市のゴミ減量施策に協力するかたちで、集団資源回収制度を活用し、資源回収を毎月実施しており年間約３５屯の資源を回収している。

また、高齢者（80歳以上独居者）の見守り、通学児童・子供達の見守り（駆け込み110番）などが提唱され、重要になってきている。

町内会会員の関心事は、なんと言ってもゴミの収集と、冬の除雪である。

ゴミ収集については、現在歩道上に設置している置き場所を、個人の敷地内に設置するよう進めているが、なかなか理解が得られないのが実情である。

除雪については、７ツの町内が合同で生活道路約 ２０ｋｍを毎年除排雪しているが、事前ＰＲを徹底しているため、あまりクレームはない。

様々な町内会活動の中で、道民カレッジで学んで参考としたものがある。

※ 道民カレッジ講座の講師で園部真人氏（歌声ボランティア代表）と知り合い、長寿のお祝い会（敬老会）開催にあたり、余興として氏にお願いしたところ、出席者から大変好評を博している。

・町内会活動における成果と課題

当町内会においても少子高齢化が進展する中で、今まで述べてきたことを積極的に進めてきたことに対して、会員の皆さんからはそれなりに評価されていると自負している。

課題としては、最近孤独死が増えていることから、独居老人（80歳以上）の見守りを強化しなければならないこと、少子化している子供たちを地域で見守って行きたいものと考えている。町内会会員の加入率向上も課題である。

・今後

今年傘寿（80歳）を迎えたが、健康維持のためにも道民カレッジ講座による生涯学習と、町内会活動の課題についてあまり無理をしない程度に励みながら、ピンピンころりで人生を全うしたいものと思っている。